



やまばと 学校だより No.15

千葉市立養護学校
千葉市若葉区大宮町1066の1
Tel. 043(265)9293
令和7年3月7日(金)発行

ご卒業おめでとうございます

校長 白井 貴

春の息吹が感じられるこのよき日に、千葉市教育委員会 学校教育部養護教育センター所長 小谷泰也 様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、令和六年度の卒業証書授与式をこのように無事に行えることを大変うれしく思うと共に、感謝の気持ちでいっぱいです。

中学部二十七名、高等部五十五名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、卒業証書を手渡しながら、この一年間の思い出が蘇ってきました。

今年度、新型コロナウイルスの流行はだいぶ落ち着いてきましたが、大変気温の高い日が続き、熱中症対策に追われました。

雨や寒さではなく、暑さが原因で身体づくりや水泳学習、県のスポーツ大会が中止になることもありました。

また、今年度養護学校は六十一年目を迎え、新たな一步を踏み出した年でもありました。これまでの伝統を受け継ぎ、さらに発展させるためのスタートの年でした。

中学部三年生の皆さんとの一番の思い出は修学旅行です。八景島シーパラダイスで、かわいい海の生き物たちと触れ合ったり、カップヌードルミュージアムで自分だけのカップヌードルを作ったりと、皆さんと一緒に楽しい思い出を作れました。

他にも、げんき交流会でのボッチャやフライングディスク競技、音楽発表会でのお囃子演奏、体育祭や駅伝大会、そして、作業製品を一生懸命に製作、販売する皆さんのがんばる姿が忘れられません。

中学部を卒業する皆さんは、四月から高等部へ進学します。他の学校から進学してくる友達と共に学び、さらにたくましく成長してくれることを期待しています。

高等部三年生との思い出も、やはり修学旅行が一番印象深いです。海遊館や金閣寺、そして、USJ。気温も気持ちも「あつく」、一緒に楽しませてもらいました。

また、普段の学校生活では、夏の暑い日も冬の寒い日も身体づくりや作業学習に、常に目標をもって一生懸命に取り組みましたね。「ちしろまつり」や「ふれあいフェスタ」では、三年生が先頭に立って行事を盛り上げ、学校をリードする姿は大変

立派でした。

四月からいよいよ次のステージが始まります。皆さんが巣立っていく社会には、まだまだ多くの困難が待ち受けています。

でも、皆さんなら大丈夫。「自分の命は自分で守る」「人とのつながりを大切にす
る」皆さんは、これらのことを学んできました。

昨年末、NHKで「18祭(フェス)」という番組が放送されていました。番組を観
たという人も多いかと思いますが、その中で皆さんと同年代の若者が「本音」を語
っていました。

一人一人が強い思いをもち、自分なりの表現でメッセージを伝えていました。皆
さんにも、きっと同じ強い思いがあると思います。

その後、その若者千人が人気ロックバンド、ミセスグリーンアップルと共に「ダ
ーリン」という曲を歌うのですが、その強い思いが込められた迫力と会場の一体感
に、私は震えるほど感動しました。「誰かの私でありたい」「私の私で居たい」、「ダ
ーリン」の歌詞にある言葉ですが、誰かも自分も大切にす。そして、私は一人で
はない。家族がいる。先生がいる。そして仲間がいる。皆さんにはそんな思いをも
って、自分らしく、自分の道を歩いて行ってほしいです。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。特に高等部
卒業生の保護者の皆様におかれましては、社会へ送り出す喜びと共に不安もあるこ
とでしょう。

しかし、今、目の前にいる生徒たちは、心身共に大きく成長しました。ご家族や
地域からの期待に十分応えていけると我々は信じています。

教職員一同、誠心誠意、指導支援をしてきたつもりですが、至らぬ点多々あっ
たかと思えます。それにも関わらず、いつも温かく応援をしてくださり、ご協力い
ただいたことに、感謝申し上げます。

結びに、卒業生の皆さん、そして関わる全ての方々が、これまで以上に幸せな
日々を過ごせることを祈念して式辞といたします。